

富津市社会教育委員会議会議録

1 会議の名称	平成21年度第4回富津市社会教育委員会議
2 開催日時	平成22年2月17日 午後3時08分～午後4時25分
3 開催場所	富津市役所503会議室
4 審議等事項	(1) 第11回富津市生涯学習推進大会について
5 出席者名	(委員) 小泉清治、黒岩功充、小泉とき、三辻和夫、諸岡善藏、鈴木幹雄、藤川正美、佐久間勇、綾部雅喜 (事務局) 渡辺教育長、吉原教育部長、山中教育部次長、村石生涯学習課主幹、當眞主査、小川主事、羽山非常勤一般職
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当(理由)
8 傍聴人数	0人(定員 5人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 社会教育係 電話 80-1345
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

第4回 富津市社会教育委員会会議録

発言者	発言内容
(事務局) 村石主幹	(本日の会議が、委員定数15名のうち、出席9名、欠席6名のため会議の成立を説明。平成21年度第4回富津市社会教育委員会会議の開会を宣言)
(委員長) 小泉委員長	(小泉委員長挨拶)
(事務局) 渡辺教育長	(渡辺教育長挨拶)
(事務局) 當眞主査	(会議資料の確認)
(事務局) 村石主幹	富津市情報公開条例により本会議は公開となるため、会議録を確定する必要がある。議題に入る前に、会議録署名人の選出について協議して頂きたい。 これよりの議事の進行については、小泉委員長にお願いしたい。
(議長) 小泉委員長	議題に入る前に、会議録署名人について協議する。今回は私と鈴木幹雄委員で署名にあたりたいがどうか。
委員一同	異議なし。
(議長) 小泉委員長	では、議事録署名人は私と鈴木幹雄委員で務めさせていただく。 続いて、報告に入る。(1)第10回富津市生涯学習推進大会の結果について、事務局の報告を求める。
(事務局) 村石主幹	説明の前に申し上げる。この間、皆さんに郵送した会議開催通知には、「第10回富津市生涯学習推進大会の結果について」を議題として明記したが、内部で協議した結果、これは報告事項であるということで本日の会議次第の3報告の(1)に載せたので、御了承いただきたい。

<p>(事務局) 眞主査</p>	<p>それでは、第10回富津市生涯学習推進大会の結果について、報告する。</p> <p>委員の皆さんには事前にアンケート結果を送付してあるので、すでに目を通されているかと思う。また、当日委員又は司会者としてご協力をいただきありがとうございました。会場で気づいた点等があれば、アンケート結果の意見・感想とあわせて後ほど伺いたい。</p> <p>第10回生涯学習推進大会の結果についてだが、当日の参加者の延べ人数は、622名である。その内訳は、一般参加者330名、サークル80名、各種団体40名、来賓・招待客が19名、PTA関係が67名、市民憲章推進委員が9名、社会教育委員が6名、オープニング出席者の恭扇会が14名、実践発表を行った学校栄養士会が7名で、講師を合わせると小計が573名となる。</p> <p>従事者は49名で、内訳は生涯学習推進協議会委員が16名、職員が29名、司会が1名、聴覚障害者連盟の手話通訳が1名、保育者が2名である。</p> <p>一般参加者の内訳を見ると、富津地区が149名、大佐和地区が83名、天羽地区が41名、市外が57名となっている。</p> <p>資料配布数は536名で、アンケート回収枚数は279枚、回収率は52.1パーセントである。ちなみに第9回のアンケートの回収率は40.6パーセントである。これは、出口付近で参加者に対して、山中次長をはじめ委員の方々がアンケートへの協力を依頼した成果だと思われる。</p> <p>参加者については、前回と比較すると延べ人数で97名の増となっている。増加の要因は、市外の参加者が増加しているためである。小泉先生の講演に興味をもたれた市外の方が、千葉新聞あるいは房総ファミリア、ぐるっと千葉などの情報媒体を見て来場されたという例がある。電話での問い合わせも、そうした情報媒体が発行された日の後に何件かかかっていた。</p> <p>また、大堀2区の区民の勉強会をこの生涯学習推進大会に合わせて行ったので、富津地区は例年よりも多く参加があった。</p> <p>食に対する関心の高まりが、アンケートにもいろいろと書かれていた。そうしたことから、今回は時機を得た講演内容であったと分析している。</p> <p>次に、年齢構成を見ると、例年と同じく50代から70代の方が</p>
----------------------	--

<p>(事務局) 眞主査</p>	<p>多く来場されていた。男女比も例年と同じく、1 : 2で女性の方が多かった。</p> <p>催し物を知った媒体については、回答いただいた方の55パーセントが広報ふつつという回答で、次にポスター、友人知人から聞いてという回答が多かった。今回広報車をアンケートに加え、回答は9人であったが、3日間にわたって市内全域延べ182キロを広報車による広報活動を行ったことが無駄ではなかったということで、事務局としては嬉しい限りである。</p> <p>食に対する関心の高まりについては、皆さんも事前にアンケート結果を御覧になって御承知のとおりである。</p> <p>当日の反省点は、アンケート結果にも記載のとおり、マイクの不具合が多々生じたことである。マイクについては、金曜日に会場設営の折りにマイク設定を十分にしたが、あのような結果となり、事務局としても非常に残念なところであり、来場者の方に不愉快な思いをさせてしまったことについて反省している。マイクの特性的な音量調整ミスなのかを検討し、来年に生かしていきたいと思っている。報告は以上である。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>続いて、報告の(2)教育委員会表彰について説明をお願いしたい。</p>
<p>(事務局) 吉原部長</p>	<p>それでは、私から教育委員会表彰について報告させていただく。この第10回富津市生涯学習推進大会に先立ち、富津公民館のホールにて12時45分から表彰を行った。</p> <p>内容については、体育功労個人として各種大会等で優秀な成績を収めた方々10名、団体は優秀な成績を収めた1団体、佐貫清心会を表彰した。また、文化功労として、開放講座を長年にわたって主催をしていただいたということで、千葉県立天羽高等学校を表彰した。</p> <p>多くの方々に見守る中で表彰を行ったが、今回の表彰をきっかけにして、より一層精進していただければと思う。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>続いて、報告の(3)平成21年度生涯学習課事業の進捗状況について、説明をお願いしたい。</p>

<p>(事務局) 村石主幹</p>	<p>それでは、平成21年度生涯学習課事業の進捗状況について説明させていただきます。</p> <p>生涯学習課は、平成21年度から社会体育係が体育振興課となったため、従来の3係から社会教育係及び文化係の2係体制となっている。</p> <p>初めに社会教育係の事業についての報告をさせていただきます。主に公民館等で活動を行っている社会教育指導員2名と家庭教育指導員1名の事業については、ほぼ計画通りに事業が行われている。また、生涯学習推進大会は、1月31日に実施した。子ども会活動については、平成19年度から市の主催事業であるジュニアリーダー初級研修会に補助金を交付している。それにより、参加者が従来よりも増加している。また、青少年相談員連絡協議会については、夏休みや新年にいろいろな行事を実施していただき、青少年健全育成に御協力をいただいている。</p> <p>次に移動図書館車については、経年劣化により老朽化が進んだため、平成20年度末に図書館車の更新を行ったことを以前御報告した。この図書館車は平成21年4月から市内16か所を巡回しているが、蔵書が増え、2,800冊を積むことができる。これにより、市民サービスの向上につながっていると考えている。なお、現在富津市に図書館はないが、福祉教育施設整備基本計画の策定が最終段階にあり、3月までには、まとまると聞いている。</p> <p>次に、君津地方4市の事業については、社会教育推進大会が昨年7月25日にかずさアカデミアパークで開催された。本年1月21日には、富津中学校体育館を会場に君津地方視聴覚教育振興大会が開催され、映像著作権についての講演と作品発表が行われた。</p> <p>続いて文化係の事業について報告させていただきます。内裏塚古墳群を中心とした市内の史跡の見学会については、古墳群マップ作成の効果もあり、平成20年度では27件、770名を数えた。21年度も引き続き見学者が多い状況が続いており、本年1月20日現在で17件、660名となっている。また、小学校への出前授業も行っている。</p> <p>次に発掘調査関係については、九条塚古墳の墳丘中心部を100年ぶりに発掘した。残念ながら石室は原形を留めていなかったが、埴輪やガラス玉、刀や馬具の破片などが新たに発見されたとのこと</p>
-----------------------	--

<p>(事務局) 村石主幹</p>	<p>である。この他古墳関係では、内裏塚古墳の東側周溝部460平方メートルを国の補助金を得て買い上げた。また亀塚古墳については、所有者の善意により市に寄贈された。古墳群の整備については、今後とも長期的に進めて行く予定である。また県の緊急雇用創出事業により、内裏塚・弁天山・飯野陣屋等の草刈り、および樹木伐採を行った。</p> <p>生涯学習課事業の進捗状況については以上である。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>何か質問等はあるか。</p>
<p>綾部委員</p>	<p>質問ではなく感想だが、一般参加者が330名という事と、生涯学習推進大会のアンケートの結果を見ると内容は素晴らしいものだったと思う。ただ、アンケートの最後の方のページにあるように、音響のことや途中でブザーが2度も鳴ってしまったこと、また、ベテランの司会者がマイクを途中で交換したり、手話通訳の方の立ち位置を変えてくれたりといったことがあったが、会場で全体を把握する方がいて、そういったことに気を配るシステムがなかったような気がする。せっかく忙しい中講師の方に来ていただいて、プロフィールの時間も割いて話をしたいということだったのに、途中で2回もブザーを鳴らしてしまったのは残念だった。先ほどあったように、音響の機器が技術的なものか機械的なものかという問題があったが、今後も会場を使う人はいるので、同じことを繰り返さないように早急に措置を取っていただきたい。講演の内容については、タイムリーな話題でとても良かったと思う。</p>
<p>(事務局) 吉原部長</p>	<p>まず、今、綾部委員がおっしゃったとおり、指揮系統の柱がなかったということは私も感じた。皆さんが、糸の切れた凧のような動きをしていたように私には見えた。これについては、慣れてしまっているとそういう部分があるので、大いに反省しなければならない。これについては、館長を含めて注意をし、私も自戒の意味を込めてお話をした。また、マイクの件については、事前に調整をしたが、位置の印をつける等のことをしていなかったようだ。この位置でいだろうということをやっていたが、ハウリングも起きていた。す</p>

<p>(事務局) 吉原部長</p>	<p>ぐ次の日に業者を呼ぶように話をして、業者が再度チェックをした。その結果、機械に不備はないようだが、成人式の時にもマイクの不具合があったので、再度マイクを含めてもし使えないならば購入する予算を確保するよう指示を出してある。これについては、大いに反省しなければならない点だと思っている。</p> <p>また、ブザーが2度ほど鳴ってしまい、先生の機転によって笑いを取りながらかわしてくれたということで非常にありがたかったが、これは、調整室の中に本来入ってはいけない人が入ってしまい、誤ってブザーのボタンに触れてしまったということである。これについては、持ち場をきちんと守るよう指示は出していたが、後手に回ってしまったということでお詫びしたい。</p> <p>最初は会場が寒く、その後暑くなり過ぎたということがあったが、一部機械の老朽化により暖房の調整がうまくいっていないということだった。現在、暖房等の整備、修理の徹底を進めている。ただ、物事が起きてから動くのは簡単で、起きる前にやるということは委員の御意見のとおりであるので、これを反省し、よりすばらしい大会になるよう努力していきたい。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>他に何かあるか。</p> <p>なければ、続いて本日の議題に入りたい。4番議題(1)第11回富津市生涯学習推進大会について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
<p>(事務局) 村石主幹</p>	<p>先ほどの報告の中で、第10回富津市生涯学習推進大会の結果について報告させていただいたが、それらをふまえて次回第11回の推進大会がよりよい大会となるよう、委員の皆さんから御意見、あるいは提案等をいただきたいので、よろしくをお願いしたい。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p> <p>藤川委員</p>	<p>第11回の生涯学習推進大会に向けての提案、意見等があれば、第10回の反省も含めて、委員の皆さんにお伺いしたいが、どうか。</p> <p>今回の大会は人選が非常に良かったと思う。テレビを通じてその人を知っているというのは、非常にインパクトがあると思う。私も小泉さんをテレビで見て知っていて、興味があった。さかのぼって</p>

藤川委員	<p>講師の方を見てみると、マスコミを通じて知られていない方の時は、人の集まりも少ないのではないかと思う。たまたま昨日、NHKのプロフェッショナルという番組を見ていたが、34歳の学者の方が出ていて、その方はとても素晴らしい方で感動した。講師の方の人選をする時、予算のこともあると思うが、どのようにして決めていくのかという過程が重要だと痛切に感じる。事務局の方は本当に大変だと思うが、今後ともよろしくお願ひしたい。</p>
(議長) 小泉委員長	<p>他には何かあるか。忌憚のない意見をお願ひしたい。</p>
諸岡委員	<p>私は、第9回、第10回とお世話になっている。今、マイクがダメだったという話があったが、この第10回の大会だけではなく、こういった公民館などの施設の係の人の責任をもう少ししっかりしてほしいと思う。ここだけの問題ではなく、公民館は地域のものであるので、担当がもう少し目を配ってやってもらわなくてはこういったことを解決できないと思う。私も施設を使わせてもらっているが、使用者は、なかなか目配りができない。第3者が見て初めてそういったことがわかる。1年間を通じて、こういったことがあってはいけないと思う。ここだけの問題ではなく、富津市全体の公民館ということを考えてやってもらいたい。</p> <p>講評を見たが、やはり食というのは身近な問題だから、評価が良かったのだろうと思う。「毎年良くなっている」という意見が載っていたが、それは確かだと思う。聴いていて、すぐに回答が出るような講演内容だったので、皆良い講演だと思ったのではないか。</p> <p>ただ、機器のセッティングの問題が出てしまったが、それはこの場所だけの問題ではない。富津市全体の使用者が同じ気持ちになると思うので、うまくやっていただかないと困ると思う。誰がやっても直さなければならないものなのかもしれないが、それでは遅いのできちんと対応をお願ひしたい。</p>
三辻委員	<p>私は今回初めてお世話になったが、やはり市民という立場から考えると、こうした行事を特定な場所だけで開催せずに、持ち回りで開催するような形でお願ひしたい。</p>

<p>三辻委員</p>	<p>また、私は老人会で施設を利用して、施設の老朽化を感じていた。確かに予算が伴うことではあるが、優先順位で対応していただけるよう、やってもらうことはできないものだろうか。</p> <p>講師の選定については、早くから食の不安の問題が叫ばれている中で、食の安全というタイトルで、それに長けた講師をお願いしたということが、多くの皆さんの心を得た理由だと思う。やはり、地域のニーズや時代のニーズ等を察知した中で、講師の選任をしていただけならと思う。</p> <p>私は老人会の芸能大会で、この26日に市民会館を利用する予定だったが、ホールのタイルが剥離したため、会場を富津公民館に変更した。また、中央公民館については、暖房設備が故障したため、冬期は利用を見合わせている。今回の市民会館も、そのような状況で修理が必要となってきた。</p> <p>私は20年間位転業対策の事務局として、県企業庁のお世話になっていた。そこで進出企業の優遇措置として、何年間か税の負担を軽減しなければ企業が出てこないという話を聞いていたが、もし、企業などからの税収があった時には、特に市民が利用する大きな施設の改修を最優先にしてほしいと思う。大変だとは思いますが、社会教育ということで、子どもだけと限定せずに年寄りの意見も考慮していただき、楽しく学びのできるような体制を取っていただきたいと思っている。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>諸岡委員から、マイクの事についてお話があったが、私もそう感じた。成人式の日、良いマイクと悪いマイクがあった。担当に聞いたら、機械がもうだめだから、機械を取り換えないとだめだと言っていた。しかし、だめな機械から良い声が出ている。使い方の問題だと思うから、再度性根を据えてお願いしたい。</p>
<p>小泉とき委員</p>	<p>確かに、マイクだけは十分に注意していただきたい。大会の当日、大野泰代さんが開会の挨拶をしたが、小さくて聞こえないという声があったので、マイクのせいじゃないかと話をしていました。</p> <p>私も近々公民館を利用するが、マイクだけは故障のないようにしていただきたい。私たちも時間が限られた中で、待たないでやるので、肝心のマイクでのごたごたしてしまうと台無しになってしまう。</p>

小泉とき委員	マイクの設備を、公民館としてちゃんとしていただきたい。
鈴木委員	<p>公民館、市民会館の施設の設備については、議会の方からもいろいろと話をした。大きな催し物については、富津公民館を使っていたらこうということで、音響も大きなお金をかけて直していただいてまだ間もない。だから、機械的には悪い物ではないと私は思っている。結局は使い方がうまくいっていないのだと思う。公民館には、その日だけ担当者がやるのではなく、普段から機械に慣れておくことが非常に重要だと話をしているが、なかなか周知徹底されていないようだ。そういったことを公民館の職員にしっかりとやっていただければ、皆さんが使われる時に気持ちよく使えるのではないかと思う。そのへんの公民館のあり方を、もう少し研究して見ていただけたらと思う。</p>
(事務局) 吉原部長	<p>今、名前が出た方からも、私に直接お話があり、前日に使った時はマイクの調子は何でもなかったのに、当日になって具合が悪いのは調整の仕方に問題があるのではないかということだった。私も調整の仕方の確認を取り、先ほど言ったように目盛がなければ自分でテープを貼って印をつけて一回で合わせられるようにしたり、スイッチを入れてすぐだとコンデンサー等の温度の関係で高い低いが出るので、事前にスイッチを入れておくようにしたり、いろいろと工夫をすることによって気持ちよく使っていただけるので、十分に配慮してほしいと指示を出してある。</p> <p>すぐ次の日にメーカーを呼んで見てもらったが、今鈴木委員がおっしゃったように機械の不備ではないようなので、これについては、職員も含め十分反省しなければならないと考えている。今後の会議で公民館長にも出席してもらい、そういったことのきめ細かい回答ができるように考えたいと思う。</p> <p>先ほど市民会館のお話があったが、これはある日前触れもなく突然、ホールの左側の壁が13メートルほどの高さの所から、50センチ四方くらいが落下した。非常に大きな音がして、床に傷がついた。他を叩いてみると、剥離をしている部分はかなりありそうだということで、真ん中の部分は使えないことはないが、何かあってはいけないということで現在使用禁止にさせていただいている。たま</p>

<p>(事務局) 吉原部長</p>	<p>たま、今回、国の二次補正の中で予算があり、これを利用して3月議会で壁を緊急に直す予算組みを提案させていただいている。若干時間がかかるとは思うが、安全のためには使用禁止もやむを得ないと考えている。ご不便をおかけしているということについては、教育委員会として大いに反省しなければいけないと考えている。いずれにしても、市民の皆様が気持ちよく使える館、事業を目指していきたいと考えているので、今回の事についてはご理解をいただきたい。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>他に意見はあるか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>第10回生涯学習推進大会のアンケートの中で、式典のあいさつを非常に長く感じている方がいるようだ。皆さん貴重な時間を割いて会場に来てくださっているということで、実質的には講演を聴きたいのではないかと思う。その中で、式典の部分で何かもう少し調整ができるかどうかをお聞きしたい。</p>
<p>吉原部長</p>	<p>今回、国会議員の方が1名増えたため、挨拶をされる方が1名増えたということで、どのような時間調整をしたらよいかを検討した。その中で、おひとり3分以内という文章をつけようかという話を私から出したが、これは議員に大変失礼だということで、全体の時間枠と何人の方が挨拶をするということを示し、客観的に見て時間調整をしていただくのが一番良いのではないかとということで今回お願いした。確かに人数が多いと話が長いと感じるので、何時から何時と時間を示して、司会原稿を送るなどいろいろな方法があると思う。これも次回の検討課題となるが、時間を区切るのは大変失礼になるので、全体の中での式典の時間を強調して示すことを検討していきたい。</p>
<p>當眞主査</p>	<p>去年もそういった話があり、今年から藤川委員にお手伝いいただいて作成したポスターの中に式典の時間と講演の時間を入れるようにした。ポスターはサイズを小さくして全戸配布し、講演が何時から始まるかを皆さんに周知するという形をとった。ただ、駐車場の</p>

<p>當眞主査</p>	<p>問題もあるので、問い合わせがあった場合は早めに来ていただかないと駐車場が確保できない旨をこちらから案内したが、皆さんには講演の開始時間をお知らせしてある。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>今回そういった時間配分がポスター等にも表記されていたので、一番いい形で実施されたと感じた。ただ、講演を聴く側からすれば、そんなことは関係なしに長いと感じるのだと思う。式典で来賓の方々に来ていただいて失礼があってはいけないので、そういったことを配慮しながら極力時間を短く出来るようやっていただきたい。</p> <p>また、オープニングから講演に入るまで時間が押してしまったため、小泉先生が気を遣ってくださって、講師紹介をしなくともよいということで講演を始めさせていただいた。どうしても時間が押してしまうので、司会者も気をつけてやらなければいけないと今回反省した。やはりそういった流れが出てくるので、司会者が御案内すれば良いのかもしれないが、お客様に理解していただけるようにする必要があったと感じた。</p>
<p>佐久間委員</p>	<p>式典の話が出たが、何人かの来賓から挨拶をいただいたあと、最後に挨拶をいただかなかった方を紹介するが、挨拶をいただいた方も含めて紹介しているので、それは本当にルールとして必要なのかどうかと思った。挨拶をいただかなかった方だけを紹介するのが良いのか、ルールはわからないが、それが長くなる要因なのではないかと思う。</p> <p>また、施設の資器材については、スタッフがきちんとやらなければならないと思う。私も富津公民館を何度か使っているが、以前もマイクハプニングがあった。本人の声のトーンやマイクの近さ等で若干変わってくるので、いろいろな形でマイクテストをしなければならないと思っている。</p> <p>大会の内容については、講師を頼むという形であると、時代のニーズやその時の旬の人ということで、だんだんと人選が大変になってくるのではないかと思う。生涯学習の推進ということは、一生涯の学習ということで、高齢者だけではなく若者層も含めて、年代を超えての交流という意味合いもあっていいのではないか。そういったことに対して、講師を呼ぶか、あるいは講師を呼ぶのではなく、</p>

佐久間委員	内部で何かできるのではないかと思う。次回をどうするかについては、ただテレビなどに出ている旬の人を講師として呼ぶというだけではのではないのではないかという気がした。これから事務局は大変だと思うが、よろしくお願ひしたい。
(議長) 小泉委員長	今、佐久間委員から意見があったが、事務局だけでなく、委員さんから講師についての御意見をいただきたいので、発言をお願ひしたい。
小泉とき委員	一般のご婦人たちは、わかりやすくてとても良かったという意見だった。いろいろな人に感想を聞いたが、今日の先生のお話は庶民的、大衆的でわかりやすくて良かったという声があったので、先生にお伝えしてほしい。
(議長) 小泉委員長	今までの大会は講演前に人が減っていたが、今回は講演前に人が増えてきた。今までにないことだ。 黒岩委員は、何か意見はあるか。
黒岩委員	いろいろあるが、難しい。今、アンケートを見たが、年代層が高い。もう少し年代層を下げる方法があるかどうか。
小泉とき委員	アンケート見ると、80代くらいの方の意見は厳しい。こういった催し物で年齢を制限すると参加者が決まってしまうので、市民全体を対象にした方がよい。
黒岩委員	そういう意味ではなくて、私が言っているのは、例えば食の安全という問題があり、小泉先生のお話は大きな意味の食の安全だったが、小さな意味の食の安全という意味では、同じ食の安全でも、どの年齢を対象にするかで違ってくる。今回の小泉先生の話は、個々の食の安全ではなく、大局的な食の安全について話をされていたので、そういった危惧は必要なかったと感じた。 私は小泉さんがカギサ醤油に来た時にお付き合いさせていただいたことがあるが、非常に食の安全について厳しい方で、そういった話を20代、30代の若いお母さんにも聴かせたいと感じた。しか

黒岩委員	し、今回の話は政治的で大局的な話なので、そういった意味では良かったと思う。
三辻委員	佐久間委員のおっしゃるとおり、限られた年齢層ではなく、広範囲な市民に参加してもらような方策を考える時期が来ていると思う。予算があって、講師の選任等に苦勞しているのが現実ではないかと思うが、富津市の社会教育ということでテーマを設けて、市の職員や議会の各常任委員会あたりから、市民に対して理解を求めるとような方策を考えるのが良いのではないか。たまには変わった方策で、高い講演料を払わずに自腹の講演ができないかと私は考えている。
(議長) 小泉委員長	皆さんからいろいろな意見をいただいたが、時間の関係上、このあたりで打ち切りたい。第11回の生涯学習推進大会に向けて、この意見を参考に進んでいきたいと思う。 また、先ほど佐久間委員からもあったが、次回の会議までに講師の推薦があればお願いしたい。これを元に事務局に検討をお願いする。以上を持って、議題の1番を終了する。 続いて、議題の2番その他について、事務局からは何かあるか。
(事務局) 村石主幹	事務局からは特にない。
(議長) 小泉委員長	委員の皆さんからは、その他に何かあるか。
藤川委員	第1回の社会教育委員会議の中で、「社会教育委員会議の目的内容が、社会教育に関する諸計画の立案、調査、研究とあるので、これからはこういったことを明確にして、それに基づいて1年間の成果をはっきりと示していくべきではないかと思う。今後、私自身、自分の考えをまとめてこようと考えている。」と述べていたので、1つ申し上げたい。 今回の推進大会のアンケート結果で、推進大会を広報ふっつで知ったという方が一番多かった。結構宣伝をしていただいているにも

<p>藤川委員</p>	<p>かかわらず、まだまだ認められていない部分が多いと感じた。</p> <p>これは私の個人的な考えだが、委員それぞれの自己紹介ではないが、社会教育委員を紹介する簡単な物を発行したらどうかと思う。例えば、教育部では教育かわら版が出ていて非常に好評を得ているが、1枚物でも良いと思う。自分たちの宣伝ではなく、富津市ではこういう方が社会教育委員をやっているということや、年4回会議を開催していること、その会議の討議内容などを掲載し、その中で生涯学習推進大会をアピールしたり、先ほどから問題となっていることなども掲載したりしても良いと思う。大量に印刷すると、当然予算も関わってくるので、主に公民館などに置くなどして、最初は枚数が少なくても良いと思う。私自身を含めて、委員自身が社会教育委員であることを自覚しながら、富津市のことを考えていくべきではないかと思う。</p> <p>年4回、皆さんお忙しい中集まって討議をするが、振り返ってみると何をやったのかなかなか見えてこないの、何か新しい物を作り上げていかなければならないと感じている。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>藤川委員から発表があったが、何か意見はあるか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>社会教育委員が何をしていけば良いのか、有意義な形にするにはどのようにしていけば良いのか、いろいろなことを考えた時に、社会教育法の中で私たちはどういったことを提案できるのかという範囲を示していただくと非常に提案しやすくなると感じたが、どうか。</p>
<p>(事務局) 渡辺教育長</p>	<p>私見だが、社会教育委員の仕事とは、先ほど藤川委員がおっしゃっていたことで、各自治体の社会教育に関する助言を教育長がいただくということだと思う。</p> <p>先ほど村石からあったように、今日の議題が本当に揉んでいただくような内容になっているかということ、私たちは事務局の立場でもう一度見直して、例えば来年度の1回目、2回目の会議の時には、予定している行事に対して御意見をいただくなどして、本当にいただいた御意見が形になるような議題をお示しするという必要なのではないかと思う。我々が事務局として、委員さんたちの</p>

<p>(事務局) 渡辺教育長</p>	<p>知見を活用させていただくことができるような題材を用意することが、1つの改善策になるのではないか。その一環で、今日も報告事項にするか議題にするかを調整した。今日議題とさせていただいた来年度の生涯学習推進大会についても、この時期にやるよりは、予算が確定した夏ごろに揉んでいただくのが良いのかもしれない。そういったことを、年4回定例会があるので、年間の計画を改めて事務局で見直しながら、委員さんのお持ちになっているいろいろな知見などを活用させていただくようなやり方を工夫してみたい。</p>
<p>佐久間委員</p>	<p>社会教育というのと、6・3・3制の学校教育とは違い、生涯を通じて何をやるのかということだと思っているが、年に1回の推進大会の名目のもとに我々委員が集まって、次回は何にしようかとやっていることが社会教育推進の目的になっているような気がする。</p> <p>あくまでもどういう講師を呼んで、どういうことを勉強して、社会教育にどう役立てるかということが本来の目的だとするならば、講演というのは1つのきっかけに過ぎない。本当にもう一步踏み込んで、これを実践にしようとするならば、例えば前回富津の小学校で、子どもたちに昔の遊びを教えるということをやったが、そういう例えば何かの大会、何かを通じてやったことを、推進大会で一堂に会してやるということのも社会教育の一環としての大会になるのではないか。講演だけが大会ではないと思う。</p> <p>学ぶことはもちろん必要で、どういう講師を呼んで、いくらかけてとやるのも1つの案だが、それはPTAの会合や他のところでもいろいろな人を呼んでやっている。社会教育というものをもう一度思い返してみると、やはりある程度年齢層を越えて、こういうことをやっていこうということで年に1回の確認で大会を行うのも1つの方法なのではないかと思う。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>各委員からいろいろな意見をいただき、内容のあるものになったと思う。</p> <p>他になれば、会議次第の5番の連絡に移る。事務局から、何か連絡事項はあるか。</p>

<p>(事務局) 村石主幹</p>	<p>事務局からはない。</p>
<p>(議長) 小泉委員長</p>	<p>委員の皆さんからは、何かあるか。 ないようなので、これで本日の議題等はすべて終了した。事務局にお返しする。</p>
<p>(事務局) 村石主幹</p>	<p>(第4回富津市社会教育委員会議の閉会を宣言)</p>